



## 琵琶湖博物館 フィールドレポーター調査 「飛び出し坊やを調べよう」の結果がまとまりました

琵琶湖博物館では、1997 年からフィールドレポーター制度を運営し、身近な自然や暮らしに関する様々なテーマで市民参加型の調査を実施してきました。

2016 年度は「飛び出し坊や」をテーマにフィールドレポーターが調査を行い、436 地点について回答が寄せられました。このたび調査結果をまとめた「フィールドレポーターだより」を発行しました。

### 『フィールドレポーターだより通巻 47 号「飛び出し坊やを調べよう」結果報告』の概要

○調査の期間 平成 28 年（2016 年）4 月～8 月

○調査の範囲 滋賀県内の 436 地点

#### ○結果の概要

- ・設置場所を調べた結果、信号のない交差点や学校の周りに多いことが分かりました。
- ・甲賀市に多い忍者の形の飛び出し坊やなど、個性豊かな飛び出し坊やが見つかりました。
- ・誰が設置したかを調べた結果、行政や交通安全協会だけでなく、地元の自治会や学校の PTA、企業など、多様な人々が設置に関わっていることが分かりました。
- ・「飛び出し坊や」のポーズをいくつかのパターンに分けて割合を調べると、滋賀県でも地域ごとに違いがあることが分かりました。（別紙参照）



「飛び出し坊や」に関する調査結果をまとめた  
フィールドレポータースタッフの皆さん

### フィールドレポーター調査とは

滋賀県内の自然や暮らしに関するテーマについて、地域に住むフィールドレポーターが身の回りで調査票を用いた調査を行い、情報や標本を博物館に送付する調査です。これまで、タンポポの分布やお雑煮調査など、多岐にわたる身近なテーマを調べてきました。

現在の登録者数は 222 名（2017 年 1 月末）、新規登録は、随時受け付けています。調査票の作成や結果分析、報告書の作成は、フィールドレポーターの中心的メンバーであるフィールドレポータースタッフが行っています。

参考：<http://www.lbn.go.jp/fieldrep/index.html>

『フィールドレポーターだより通巻47号「飛び出し坊やを調べよう」結果報告』の主な内容

調査の背景

- ・飛び出し坊やとは、人などの形に切り出された交通安全・交通事故防止を呼び掛ける看板のことで、滋賀県内では広く親しまれている。
- ・飛び出し坊やはどんなところにいるのか、どんな飛び出し坊やがいるのか、誰が設置しているのか、滋賀県ではどう認識されているのか、調査を行った。

調査の経過

- ・フィールドレポーター自身の飛び出し坊やに関する認識や経験などを報告する調査票-1は40件、飛び出し坊やの設置場所、姿かたち、設置者などを調査する調査票-2は436地点の報告が寄せられた。

主な結果

- ・信号のない交差点や学校の周りに飛び出し坊やが多くいることが確認された。
- ・甲賀市に多い忍者の形の飛び出し坊やなど、個性豊かな飛び出し坊やが見つかった。
- ・誰が設置したかを調べた結果、行政や交通安全協会だけでなく、地元の自治会や学校のPTA、企業など、多様な人々が設置に関わっていることが分かった。

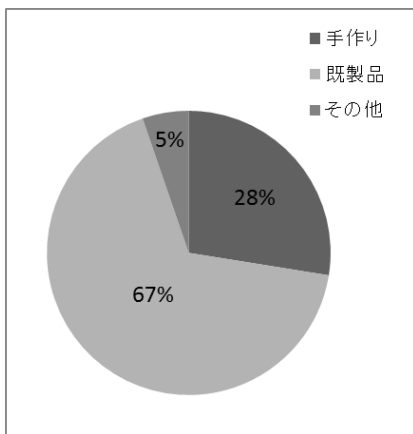


図1 手作り・既製品の割合 n=436

- ・調査された飛び出し坊やを既製品と手作りに分類すると、約3割が手作りだった(図1)。
- ・調査された飛び出し坊やをポーズに着目して分類すると、片手をあげて横断しようとしているポーズ(図2、B)、両手を前後に振って走り出しているポーズ(図2、C)、飛び出してしまい車が止まってくれるよう手のひらを前に出しているポーズ(図2、E)の飛び出し坊やが多かった(図2)。Bは大津市、Eは湖西に比較的多く見られ、Cは県下全域に広く見られる傾向にあった。
- ・調査に参加されたフィールドレポーターの約9割(37人中32人)が、飛び出し坊やの設置数を「ちょうどよい」と感じていた。

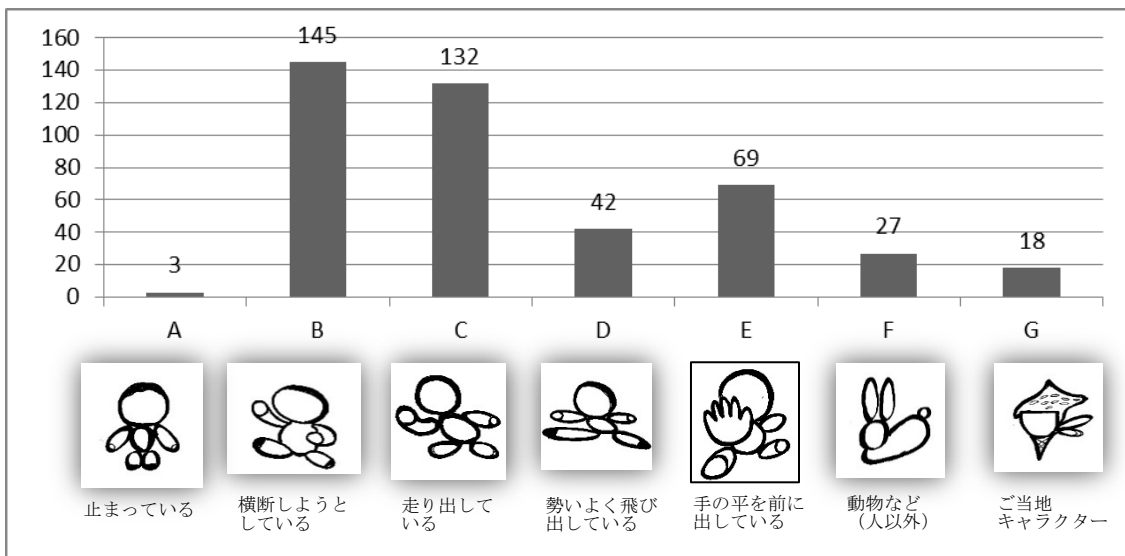


図2 飛び出し坊やのタイプごとの件数(ポーズに着目した分類による) n=436